

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(7) 請山から直山へ

文禄4(1595)年5月、豊臣秀吉の重臣である浅野弾正を通じ、石見銀山から鶴子銀山に派遣された石州忠左衛門・弟の忠四郎・石田忠兵衛は、本口間歩などで「横相」という水平坑道を掘り始めます。

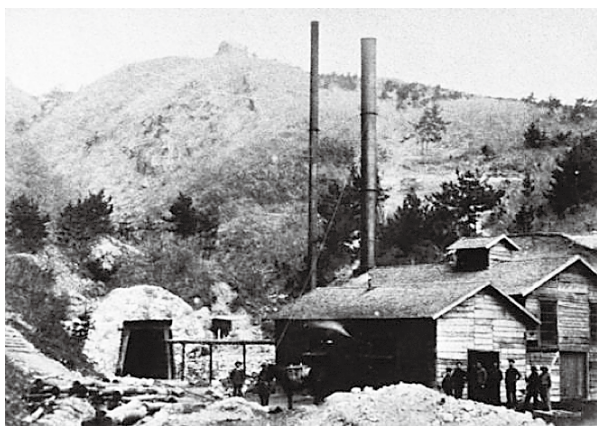
彼らは、「山見立人」ともいわれ、鉱脈の方向やその深さを測定し、どこから掘り進むのかを判断・決定する技術者でした。

鉱脈に対して直交する形で坑道を掘り進む「横相」は、複数の鉱脈を探索できるばかりでなく、露頭掘りやひ押し掘りと異なり、天候に左右されずに作業ができました。また、坑道が実際はゆるやかな上りであるため、排水が容易となります。

このように、当時の最新技術を導入して銀鉱石を増産する中、金山代官である立岩(山庄とも)喜兵衛・志駄(須田とも)修理亮から、「一、金山では、知人・親類でも付き合いや遊びを禁ずる。一、どのような理由であっても、金山内での物の貸し借りや仲間の用事を代わりに行わない」などの触れが出され、労務管理が強化されていきました。

さらに、「一、山を請けて銀ほるべからざる」として、個人の請負で鉱石を掘り出していた多くの「請山」は禁止されました。

こうして鶴子銀山は、上杉景勝が直接銀山を経営する「直山」となり、採鉱や製錬にたけた技術者の組織化を進め、全国でも有数の銀山となっていきました。



1910年代頃(大正期)の本口間歩

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136

地域おこし協力隊の活動を紹介します



海府地区担当
にしもとさわこ
西本佐和子さん

佐渡の北端・鷺崎で「手ずから市場」をスタートさせました。この市場は、畑に来て野菜を収穫してもらい、その人の思った額を支払ってもらおうというシステムです。

市場で収穫できる野菜は、鷺崎の地の利を活かし、ブリやマグロの内臓、わかめなどを海水と麹菌で発酵させ、液肥として使用している本間太郎さんが作ったものです。子や孫に食べさせても安心なものを提供することを原点とし、農業を続けられています。

10月29日、「手ずから市場」のスタートに合わせ、市場の会場である畑で収穫祭を開催しました。さつまいもや大根などの収穫体験、新米おにぎりや焼き芋の振る舞い、地元農産物等の販売や、本間さんのお話しい、演奏会を行いました。

当日の天気は曇り、風も強く寒い日に一体どれだけの人が鷺崎まで来てくれるのかとても不安でしたが、

60人以上の方が集まりました。収穫祭は、鷺崎集落の方中心に協力を呼びかけ、多くの方を巻き込んだ開催でした。

まず、地元の方たちが賛同して協力してくれるか、そこが一番緊張する場面でした。しかし、自ら手を挙げて協力してくれた方や、アイデアを出してくれた方など、想像した以上に協力してくださる方が多く、心細さは少しずつ消え、この集落の担当でよかったと強く思いました。

地元の方や遠方の方などさまざまな地域の方が今回の収穫祭に集まり、輪を作り話す姿を見て、人が集まる場を微力ながら少しでもつくれたことが一番嬉しく、開催してよかったと心から思っています。



市場でのネギ収穫の様子

1月の「手ずから市場」は、大根やかぶなどが収穫できます。ぜひ鷺崎までお越しください。

◆市役所地域振興課 地域振興係 ☎63-4152